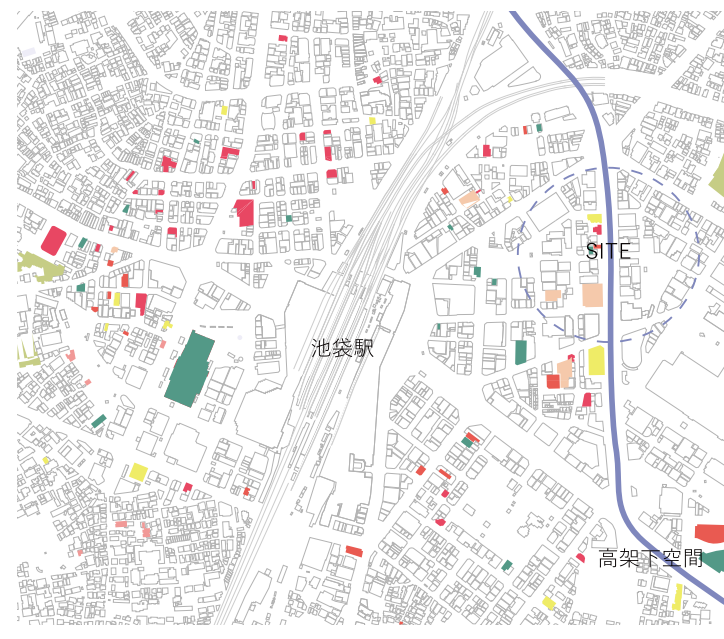


リサイクルセンターイケブクロ

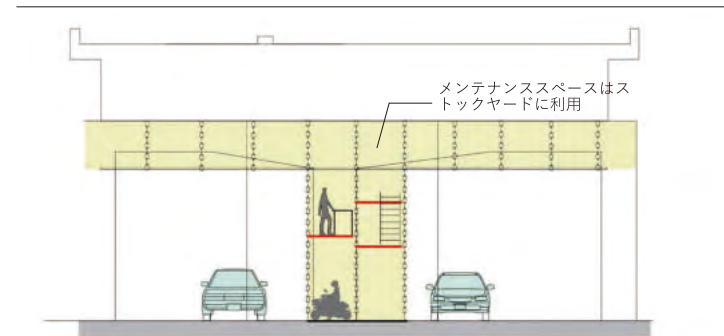
5年に1度点検工事が行われる際、一時的に高架下に足場が現れる。そこで、工事の仮設足場を常設の構造体に置き換え、使われなくなったものを新しいものに再生するリサイクルセンターを提案する。Aエリアのリニア高架下の既存バイク駐輪場はすでに人がアクセスできる場所であるため、この余白空間を新たな都市空間へとリノベーションし、池袋らしい生き生きとした風景をつくる。



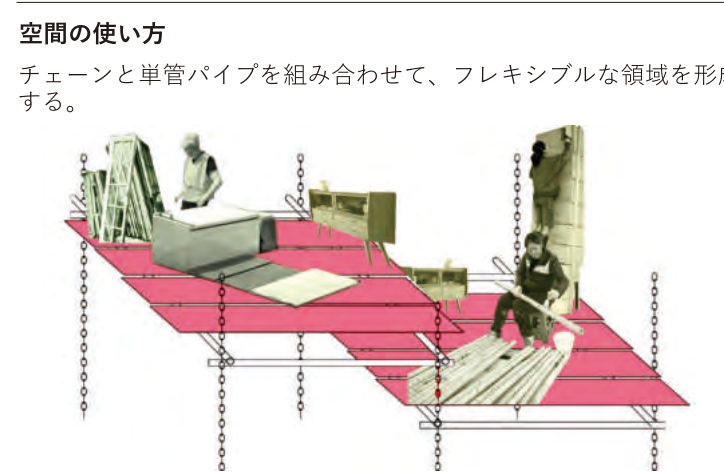
池袋のネットワーク
池袋は、伝統的な工業製作やDIYなどで活躍する職人、文化人、アーティスト、普段はあまり表に出てこないサブカルチャーを愛する人達が数多く集まるという潜在的なリソースがある。このリサイクルセンターはそれらの様々な人々が混じり合い、池袋固有のカルチャーネットワークを繋ぐハブとして機能する。
また、車の出入りや搬入にも便利な高架下で、リサイクルによる都市活動の循環システムを可視化し、新しい都市風景を形成していく。



リサイクルセンターについて
リサイクルセンターは以下の3つの部門で構成される。3つの部門が高架下でリニアにつながり、リサイクルを通じた創造活動の集積による新しい文化的流通を生み出す。
ストックヤード：不要になった洋服や家具、雑貨、劇場から収集する舞台の杖・小道具、住宅などの解体建材などを収集・保管する。
ファクトリー：収集したものにアーティストや職人たちが手を加え、再生する。
ギャラリー：再生した作品を展示・販売する。イベントスペースとしても活用する。



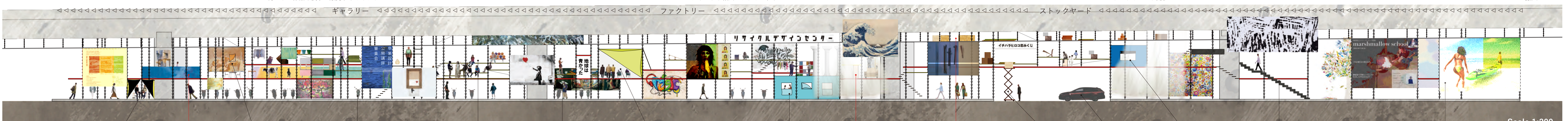
余白のクリエイティビティ
都市の余白は新しいアートやデザインを創造する刺激に満ちた場所だ。高架のメンテナンスに用いられる仮設足場を応用し、高架構造体によってだけ負荷をかけるように配慮しつつ、吊り橋を基本とした活動の場を形成する。吊りチェーンに単管パイプを通して接合部をボルトで固定し、パイプに床板を架けて基本的な領域を設ける。
主要な諸スペースと動線による固定床と、イベントやプレゼンテーションスペースなどニーズに合わせて更新する可変床を設け、既存のバイク置き場を確保しつつ、フレキシブルに場が変容するリサイクルセンターを計画する。



空間の使い方
チェーンと単管パイプを組み合わせて、フレキシブルな領域を形成する。
チェーンに布を固定することで、大小のアトリエを設置する。布にジッパーを掛け、自由に開口をとることができる。



高架下をグラフィティの空間へ
チェーンに布を掛けて自由にアトリエを張り、アトリエやショップ、新しい事業のスタートアップオフィスなどをつくる。テントは鮮やかなテキスタイルや、活動のアピール、作品発表、イベント告知などのグラフィックを装う。高架下全体は、グラフィティが連なった都市アートのようなダイナミックなギャラリーとなり、華やかで好奇心に満ち溢れた都市風景を築く。そして、人々の創造的活動とその作品の連鎖が周囲に活気や賑わいを創出する。



- 受付 交差点に面して設けることで、窓口へのアクセスを容易にする
- ギャラリー 職人やアーティストなどが作った作品を展示・購入する空間
- シアター アーティストの映像作品を自由に表現・鑑賞できる空間
- 既存駐輪場 既存のバイク駐輪場をそのまま保持する
- コンサートイベント 若手アイドルや歌手たちのイベントやコンサートが開催される
- グラフィックパネル パネル式にして、更新するためのプレゼンテーション空間
- プレゼンテーションスペース スタートアップ企業や若手集団のためのプレゼンテーション空間
- ファブラボ プリンターやレーザーカッターなどのラボを設け、ものづくりが行える
- ファクトリー 収集した服や家具や資材をつかって職人やアーティスト加工・再生する
- ストックヤード 服や家具、資材などを収集する空間
- ハンドリフト 重たいものをはじめとする物をストックヤードに運ぶ
- 車寄せ 荷物の搬入を行う
- バックヤード リサイクルセンターで働く人々のための休憩・更衣室
- 歩道橋 既存の歩道橋から、リサイクルセンターへのアクセスができる
- 広告スペース 人が入れないスペースは広告スペースとし、収入を管理・運営に充てる

Scale 1:200

可変部
固定部